

建保第三乃秋の比東山院乃念佛

九重乃人く男女老幼のとも、  
 ことある、  
 人なるに糸を、  
 時と九月十三夜乃月なる、  
 くらりや有人の歌をみせに放あつて  
 いとよきつ遊をささるまゝ  
 かついひ道なる者とのをい  
 てあはれきつ月をく山乃福り  
 入さむとする、  
 八雲乃煙を、  
 よきい我も人とのあたり  
 水草のふり世なる、  
 奇合とする、



此の歌は  
 建保第三の秋  
 東山院の念佛  
 九重の人  
 男女老幼  
 ことある  
 人なるに  
 糸を  
 時と九月  
 十三夜乃  
 月なる  
 くらりや  
 有人の歌  
 をみせに  
 放あつて  
 いとよき  
 つ遊を  
 ささるま  
 がついひ  
 道なる者  
 とのをい  
 てあはれ  
 きつ月を  
 く山乃福  
 り入さむ  
 とする  
 八雲乃煙  
 をよきい  
 我も人  
 とのあ  
 たり  
 水草の  
 ふり世  
 なる奇  
 合とし  
 する



梅へや

春臨  
の  
春臨

おひつろふ  
おひつろふ  
おひつろふ

おひつろふ  
おひつろふ  
おひつろふ

あや  
あや



石車作

あや  
あや  
あや

石車作



石車作  
 此の石車は、石を砕くために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

石車作  
 此の石車は、石を砕くために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

石車作  
 此の石車は、石を砕くために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

たぎ物



たぎ物  
 此のたぎ物は、木を削るために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

たぎ物  
 此のたぎ物は、木を削るために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

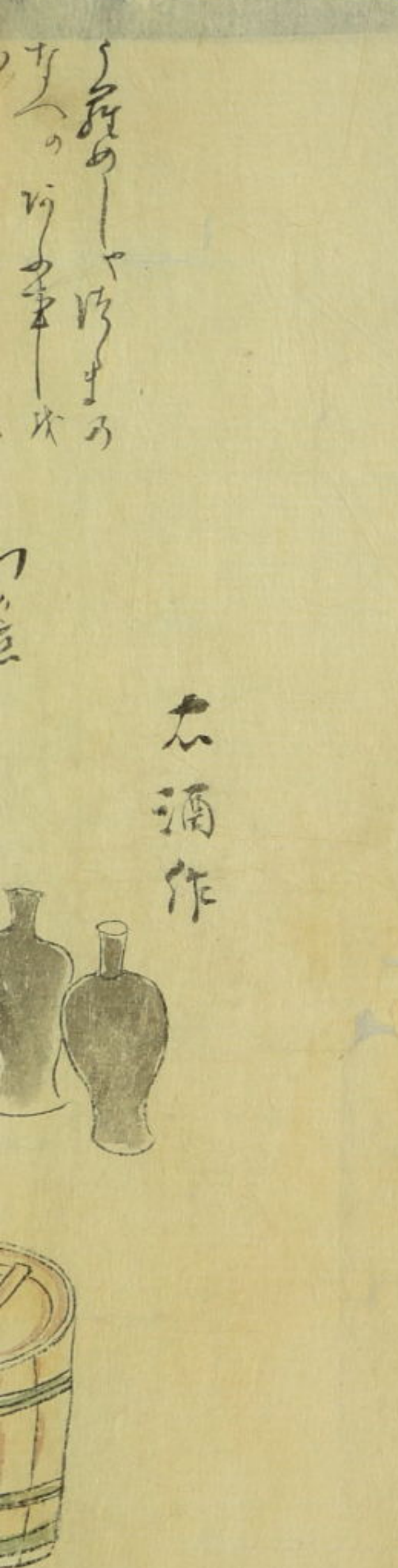
たぎ物  
 此のたぎ物は、木を削るために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

たぎ物



たぎ物  
 此のたぎ物は、木を削るために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

大酒作



大酒作  
 此の大酒は、木を削るために用いられ、古くから使われてきた。其の作り方は、木の輪に石を嵌め、石を砕く。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。其の石は、石臼の石と同じである。

くげめしてはけすの  
すのりやきりし  
我いすのりやきりし  
すのり

わい  
すのり  
すのり  
すのり  
すのり

太酒作



先酒め  
すのり  
すのり  
すのり

左油賣

左油に油もあつた油は油井山崎の月  
すのりやきりしすのりやきりし  
山の油

左の油をきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし



山の油  
すのり  
すのり

すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし

すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし

すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし



すのり  
すのり  
すのり

左筆作

すのりやきりし  
すのりやきりし  
すのりやきりし

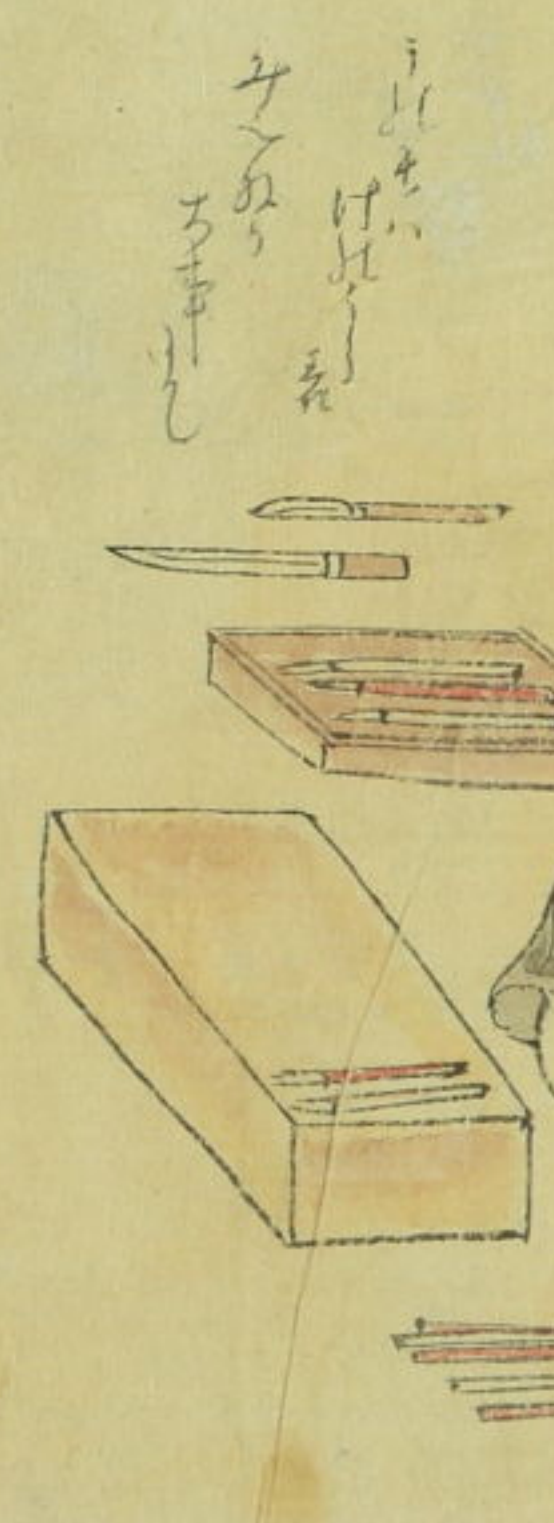


かてつふふきあつ  
つめくさくあけ  
けなうきよまらぬ  
ほきとふらな

石筆のつくりつあきしし  
あーがらうまをわらぬ  
うけり古物中けあつ  
いりてあきしし

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

左筆ゆい



あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ

左筆ゆい



あつ  
あつ  
あつ

左炭焼

あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ



あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ

炭火の味は...  
山崎の...  
...  
...

...  
...  
...

あせか  
いり

大をこゝろ



秋の  
...  
...

左るか子

...  
...

...



右るか子

...

...

...

...



...

左山人



梅雨の山は... 左山人

五月のあつたつた... 梅雨の山は...



右浦人

花... 右浦人



花... 右浦人

左山人

梅雨の山は... 左山人



梅雨の山は... 左山人

左山人



梅雨の山は... 左山人

夕暮し  
五更  
あけぼの  
父の歌  
清く静かに

七かきとく けり かく けり すわ けり

志草切

やまも ちも ちも ちも ちも ちも  
あきも ちも ちも ちも ちも ちも  
きりりりりりりりりりりりりりり

たの せ せ せ せ せ せ  
おの の せ せ せ せ せ せ



せ せ せ せ せ せ  
せ せ せ せ せ せ

たの せ せ せ せ せ せ

たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ

たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ



たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ

たの せ せ せ せ せ せ

たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ

たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ



たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ  
たの せ せ せ せ せ せ



此の山をたのむに...  
あつたての...  
あつたての...  
あつたての...

三つすれ

少許すれ

雲間の

下布

赤布

青布

白布

凡の歌...  
...  
...

人...  
...  
...

凡の歌...  
...  
...

たふひり



たふひり



たふひり



あつたての...  
...  
...

あつたての...  
...  
...

いづれか  
月夜ありて  
あやふし  
うらやま

左  
待人の  
あやふし  
うらやま

右  
待人の  
あやふし  
うらやま

右  
待人の  
あやふし  
うらやま

左  
待人の  
あやふし  
うらやま



右  
待人の  
あやふし  
うらやま



右  
待人の  
あやふし  
うらやま

左  
待人の  
あやふし  
うらやま

二つ

きんぎょ

五つ

可なり

大さじ

秘  
月

いふ

わ

わ

さ

た

右

秋

丘

丘

丘

い

い



しつくりと...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

なま...  
...  
...

たまたま...

...



...

...

男...  
...  
...

...

...



...

...



...

...

...

...

...



...

わきまらね  
 こころよ  
 けしき  
 しんがら

神さやふわらさーたる  
 多そまわのかくし  
 少印もらんらね

ねをたのむのささよのたつり  
 論しありおをたつり  
 けさらしきまらさ  
 けささー

たさいさ

か  
 り  
 の  
 せ  
 ら  
 れ  
 る  
 け  
 ら  
 れ  
 る



たほ細

たのほのちのちのちのちのち  
 けしき  
 けしき  
 けしき

西  
 あり  
 あり  
 あり



さ  
 さ  
 さ

右  
 久  
 呂

あり  
 あり  
 あり

さ  
 さ  
 さ

あり  
 あり  
 あり

あり  
 あり  
 あり



た  
 草  
 履  
 は  
 くら

あり  
 あり  
 あり

たき履

ほくら

このむつと人あ  
わたりし雲井岩  
月切れ少  
たや  
ん屏

をけりたやねこれ月  
いづれに  
くさりた

左奇とぬつと中納言  
扇の中しりしこれす  
此牙以れととつと立  
おまをれや  
はらりし  
日掛



辛  
いん

そとに  
わし  
たのめ  
たらし



乃と  
その

左むすこり

山風  
この



合の  
や  
月小  
す  
あ  
の

たあ



吐  
ま  
二

此の紙は我々の手で作られた  
ていへば紙の神の御子  
と云ふは其の才を御し  
て之れを御すに非ざる

紙の神の御子と云ふは  
其の才を御し  
て之れを御すに非ざる  
可成持

大面も紙の神



左御寸の足

雲と年  
其の御子  
乃夜は身

乃夜は身  
乃夜は身

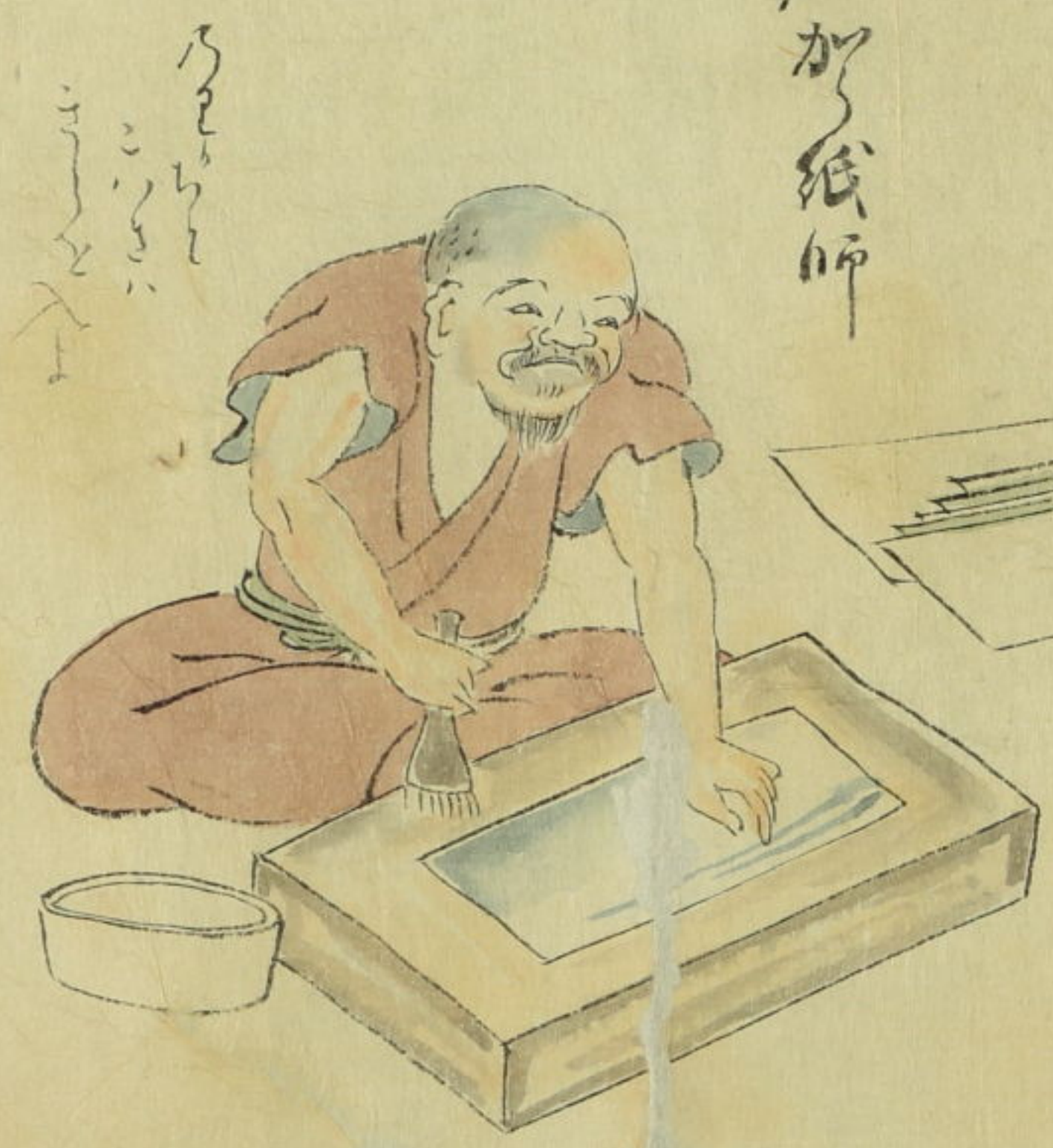
此の御子の御子  
乃夜は身  
乃夜は身



人目と御子の御子  
乃夜は身

大加紙師

乃夜は身  
乃夜は身



左一御一師



左一鳴一沙

此の

大なる

草の

ま

夜半に

二番

あきしかなるよるをいひて  
月影あそびしつゝ

たの歌はむしうしとて  
こゝろをたのむは  
このせしむるは  
の

大なる一物なり



半の

た  
ま  
は  
の  
お

た  
ま  
は  
の  
お

た  
ま  
は  
の  
お



大なる琵琶法師

た  
ま  
は  
の  
お

た  
ま  
は  
の  
お



た  
ま  
は  
の  
お



此の如く光り人共一と  
此の如く光り人共一と  
此の如く光り人共一と

大女

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く



左佛師



河内  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

大經師



左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

左の如く  
右の如く  
左の如く  
右の如く

たすね給

いふやうに... たるねの...  
たるねの...  
たるねの...  
たるねの...



名貝ごり

志を...  
人の...  
いふ...  
また...



た給師

たる...  
たる...  
たる...  
たる...



石冠師

いふ...  
いふ...

引...  
引...

右冠仰

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに



引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

大観くそ



引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

大香はる



引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

引あはれのついでに  
いしついでに  
いしついでに

さしの間々  
あつちの  
あつちの

いしら天乃

丑奈

あつちの  
あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちのあつちの地  
あつちのあつちの地  
あつちのあつちの地  
あつちのあつちの地

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの



あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

あつちのあつちの

たむくさく

ま放地の月付れはるの  
ついでにききおるは  
いふのほ月影をまらぬ  
ついでにききおるは

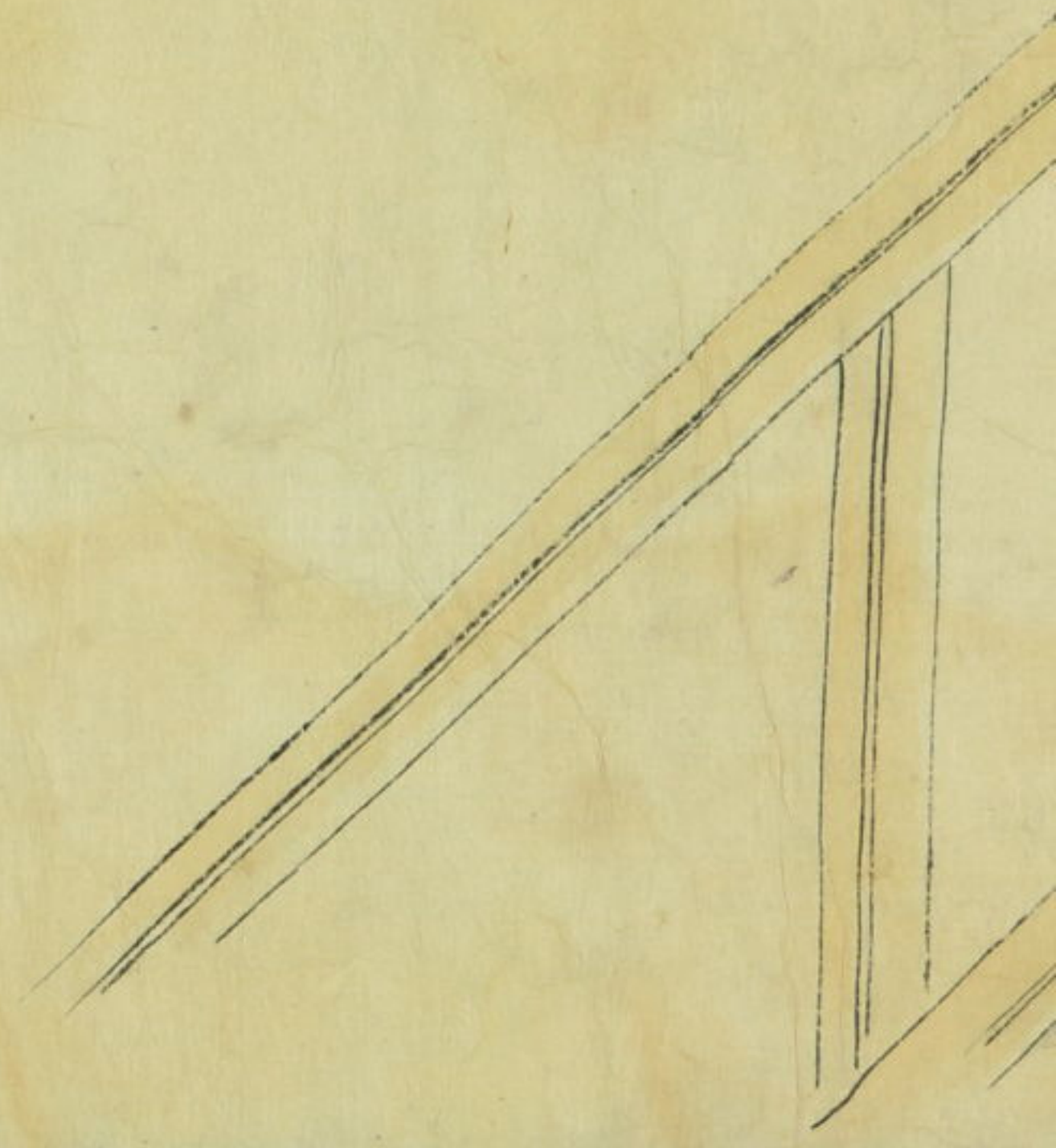
五歌えりや  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお

たむくさく

五歌えりや  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお  
おのりお



たむくさく



たてくらさかり

月夜は

静かの

ささや

ささや

ついでにささやのささや

ささやのささや

ささやのささや



ささやのささや

右念珠さかり

静かのささやのささや

ささやのささや

ささやのささや

ささやのささや

ささやのささや

ささやのささや



ささやのささや

ささやのささや

左紅さかり

ささやのささや

ささやのささや

ささやのささや



ささやのささや

たてくらさかり

ささやのささや

ささやのささや

ささやのささや



ささやのささや

たりのみえ



まゝのまゝ

人のあつて

えんげん

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

左薬師



うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

右法海



うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

うたつて

丸米賣



丸米賣

やうやくの由緒つやよのちこめん  
月ひらきしころきけりありけ  
ほあしほりりきしころきけりあり  
せしころきけりりきしころきけり

たぢりきしころきけりりきしころ  
似しころきけりりきしころ

程は公  
けり  
あし  
あし



悪きしやしつり  
すふのしつり  
れあのしつり  
ゆすり

あしつりりきしころきけりり  
はしつりりきしころきけりり  
りきしころきけりり

さん  
ころきけりり  
りきしころ  
りきしころ  
りきしころ

す  
り  
り  
り



寛政十戊

あ  
午





73  
3645  
406





783  
3645  
406

東北院  
遠保職人歌合

建保第二乃秋の比東北院乃念佛よ

九重乃人く男女老若もいやこ

とありけりけりみちく

人ありくは系玉く職人なる

時しと九月十三夜乃月くる

りりや有人の歌とみあはせ放る

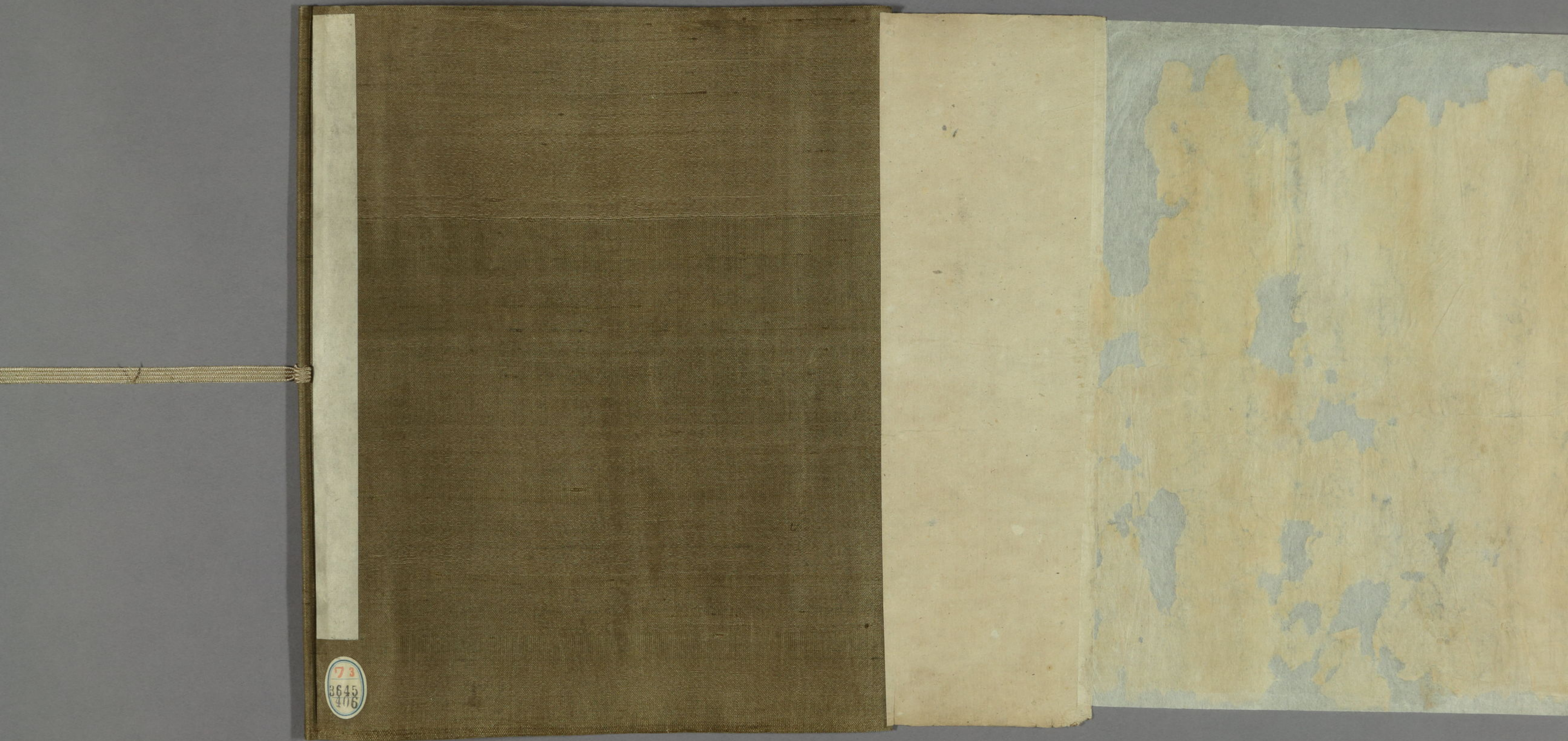
いとよきりつ遊きささやま

あひい道と乃者ともを



783  
3645  
6044





73  
8645  
406